問 5

A

 $\angle H = 1.66 + 1.78 = 3.46 \text{kJ/mol}$

В

IとⅡ、ⅡとⅢの共存曲線の交点を求める。

IとII

傾きは、a=1.68×1÷305÷1.92=7.99×10 $^{-3}$

よって、

P = a(T - 305) + 1

同様にして、

ⅡとⅢは

傾き b= $-1.78 \div 357 \div 1.20 = -4.15 \times 10^{-3}$

よって

P = b(T - 357) + 1

この2直線の交点を求めて、T=323K、P=1.14atm

問 3

図は教科書の43ページみたいなのをイメージしてください。

A→B (500K 定温)

 $W_{A\rightarrow B}$ =500Rln5= Q_{in}

B→C (断熱)

 $W_{B\to C} = U(500K) - U(300K)$

C→D (300K)

 $W_{C\rightarrow D} = -300Rln5 = Q_{in}$

D→A(断熱)

 $W_{D\to A} = U(300K) - U(500K) = -W_{B\to C}$

よって

 $W = 200R \ln 5 = \cdots = 2.68 \times 10^{3} J$

 $Q = 300Rln5 = \cdots = 4.02 \times 10^{3} J$

注

間違いある可能性が結構高いです汗

間 4

はっきり言って捨て問かと。

温度一定なので、

$$\triangle G = n \int_{P_1}^{P_2} \frac{RT}{P} dP = nRT \ln \frac{P2}{P1}$$

ここで n=1000/18、T=298、P2/P1=0.60

なので、

$$\triangle G = -7.86 \times 10^{4} J$$

dT=0 なので、

エントロピーが増大するので自発的におこる。

う一、難しい汗

化熱過去問 09 解答 文責: 向川

とりあえず解答つくってみました!

正直あってる保証は全くないので、間違ってるとこあったらクラスページに書き込んでく ださい汗

注)添え字なくてもわかるとこは省略してあります。

問1

温度 $T\rightarrow mT$ 、体積 $V\rightarrow mV$ になっていることに注意して、

エネルギー変化∠U=n(m-1)Cv T

気体がする仕事W=P/V=(m-1)PV=n(m-1)RT

よって割合をpとすると、気体に与えられた熱量 $Q = \angle U + W$ なので、

$$p = \frac{\triangle U}{Q} = \frac{1}{\gamma} \cdot \cdot \cdot (答)$$

注) 問題文の「膨張のための仕事」っていう書き方がわかりにくいのですが、多分エネルギー増加分っていう解釈で ok なはずです。

問 2

以下 $V \rightarrow V + \angle V$, $T \rightarrow T + \angle T$ になったとする。U = aT + bV + Uo なので、

 $\angle U=a \angle T+b \angle V$ 、気体がした仕事 $W=P \angle V$

ここで断熱変化なので、

/U+W=0

$$a \angle T + (P+b) \angle V = 0$$

 $(P+b)V=RT \downarrow \emptyset$

 $aV \angle T + RT \angle V = 0$

$$\frac{a\triangle T}{RT} + \frac{\triangle V}{V} = 0$$

この両辺を積分して、

$$\frac{a}{R}\ln T + \ln V = \text{const}$$

これから正しいことが証明された。

解説) 積分できるかが最大の山場。正直知らなきゃキツい。